



## 1 1 月（霜月）

校長 川村 俊弘

2学期も折り返しを過ぎ、11月に入りました。今回は、11月について少し調べてみました。

### 1 11月の和名について

11月の和名は一般的に「霜月（しもつき）」が有名ですが、ほかにも「雪待月（ゆきまちづき）、霜見月（しもみづき）、冬半（とうはん）、神帰月（かみかえりづき）」とも言うそうです。（たくさんありますね。）

※ 神帰月（かみかえりづき）は10月（かんなづき）に出雲に集まっていた神様が自分の居場所へ帰っていくためだと思われています。

### 2 霜月の行事について

11月の和名が一般的に霜月と言われることは、上にも述べましたが、これは、霜が降り始める頃という意味があります。暦の上で冬とされる二十四節気の「立冬」を過ぎると、暖かな小春日和と寒い日を繰り返しながら、寒さが深まります。冷たい風に落葉が舞い、虫や動物たちが冬眠に入るのもこの頃。冬の訪れを感じさせます。

#### (1) 酉の市

酉の市は、日本各地の鷲（おおとり）神社の年中行事です。江戸時代、現在の東京都足立区にある「大鷲（おおとり）神社」の近隣の農民が、秋の収穫を祝ってニワトリを奉納したのが始まりだと言われています。

その後、熊手や招き猫などの縁起物を買って、開運招福を願う祭りになりました。酉の市は、11月の酉の日に行われますが、酉の日が12日ごとに巡ってくるために、11月に3度行われる年もあります。「三の酉」まである年は「火事や災いが多い」との故事にならい、用心する風習もあります。

#### (2) 七五三

数えて3歳の男女児、5歳の男児、7歳の女児を祝う行事で、11月15日頃行います。七五三を祝うようになった平安時代には、「七つ前は神のうち」とされ、現世では命が定まっていなかった者として扱われていました。子どもの死亡率も高く、七才まで無事に成長させるのは、大変でした。節目、節目に神様への感謝の意を表し、子どもが元気に成長できるよう祈ったのが始まりです。

※ この他にも酉の市同様秋の収穫を感謝する「亥の子（いのこ）祝い」や宮中や全国の神社で行われる新嘗祭などがあります。

